

2017年8月18日
公益財団法人 日本英語検定協会

速報！

4技能型アカデミック英語能力判定テスト「TEAP」 今年度第1回 志願者数は 8,099人 ～前年同回比で 170%に増加～

公益財団法人 日本英語検定協会（理事長：松川孝一、所在地：東京都新宿区、以下「英検協会」）は、4技能型アカデミック英語能力判定試験「TEAP(ティーブ)」(Test of English for Academic Purposes、以下「TEAP」)におきまして、今年度（2017年度）第1回の志願者数が確定いたしましたことを速報としてご報告申し上げます。

2017年度第1回（7月23日実施）TEAP 総志願者 8,099人
（前年度 同回比 170%、3,360人増）
※前年度 同回 TEAP 総志願者数 4,739人

なお今回のTEAP志願者の大幅な増加について、英検協会では以下のように考察いたします。

【英検協会の考察】

文部科学省は、英語教育改革の柱の一つに「4技能化」を掲げ、2020年に向けた大学入試改革において、4技能を総合的にバランスよく評価するために外部検定試験を導入する方針を明確にしています。これらを背景として以下の要因があったものと考えます。

1. 全国で、英語の外部検定試験を入試に導入する主要大学が増加したこと。また4技能のスコア提出を受験生に求める大学が増えたこと。
2. TEAPを採用する大学の増加に伴い、受験生にとっても外部検定試験で求められる基準スコアを取得すれば、第一志望と併願校のいずれにも出願しやすくなるため、この併願パターンでの活用が広がっていること。
3. 高等学校など団体単位での申し込みが増加したこと。また大学等が主催する個人向け TEAP 関連の説明会への参加者が増えていることから、団体・個人ともに TEAP の関心度が高まり認知度が上がってきている。

今後も入試における外部英語検定試験への関心は一層高まり、TEAP の採用大学、志願者ともに増加していくものと英検協会では考えております。この先も4技能化の推進に貢献するとともに高品質の検定試験を提供してまいります。